

# RISクロルフィックスエース

## 1 はじめに

「RISクロルフィックスエース」は当社独自の特殊混和材技術を駆使し、鉄筋コンクリート構造物の劣化因子である塩化物イオンを固定化し無害化する、塩化物イオン固定化材をあらかじめ混和した塩化物イオン固定化材混和型の断面修復材です。

しかも、NEXCO/構造物施工管理要領 表-3-5-2左官工法による断面修復材の品質規格を満たす高性能な断面修復材です。

「RISクロルフィックスエース」を用いて鉄筋コンクリート構造物に断面修復するだけで、塩害に対する耐久性が格段に向上します。

## 2 特長

### ①塩化物イオン固定化材混和型です。

鉄筋を腐食させる塩化物イオンを固定化する特殊混和材を混和しているため、鉄筋腐食に対して抜群の耐久性を発揮します。

### ②ポリアクリル酸エステル（PAE）系粉末ポリマー混和タイプです。

高性能粉末ポリマーを混和することで、高い付着強度、曲げ強度を発揮し、さらに鉄筋コンクリート構造物の劣化因子である水、二酸化炭素、塩化物イオンの浸透も抑制します。

### ③プレミックスタイプです。

工場で厳しい品質管理のもと製造したプレミックスタイプですので、現場で水を加え練混ぜるだけで良好なモルタルが得られます。

### ④特殊ファイバー混和タイプです。

モルタルの耐久性に大きな影響を与えるひび割れの発生を抑制します。

### ⑤標準的な塗り厚は1層あたり約10～20mmです。

コテ塗り施工に適度な粘性を有し、作業性も良好です。

## 3 用途

●塩害を受ける鉄筋コンクリート構造物の断面修復

## 4 一般物性

- 荷姿：12.5kg袋
- 外観：セメント系薄灰白色
- 使用温度範囲：10～35℃
- 水量範囲：W/粉体＝13～15%  
(標準14%)

## 5 配合

項目	目標軟度 フロー値	RISクロルフィッ クスエース	標準練混ぜ水	練上り量
1袋当たり (kg)	150～190	12.5kg	1.8kg	7.1 $\frac{1}{2}$
m <sup>3</sup> 配合 (kg/m <sup>3</sup> )		1750kg	245kg	1000 $\frac{1}{2}$

※使用水量は、材料温度、環境温度、ミキサの形状などにより変化しますので、予め試験練りを行い、適性水量を確認して下さい。

## 6 物性例

試験項目	測定値		試験方法
硬化時間	3.0時間		JIS R5201
断面修復材の外観	均一で、われ、はがれ、フクレなし		JIS A6909
硬化収縮性	0.04%		JIS A1129-3
熱膨張性	$1.2 \times 10^{-5} / ^\circ\text{C}$		JIS K6911
コンクリートとの付着性	湿潤時	2.0 N/mm <sup>2</sup>	JIS A6909
	耐アルカリ性試験後	2.0 N/mm <sup>2</sup>	
温冷繰返し試験後	1.8 N/mm <sup>2</sup>		
塗装塗膜との付着性	温冷繰返し試験後	1.9 N/mm <sup>2</sup>	
圧縮強度	7日	22.5 N/mm <sup>2</sup>	JIS R5201
	28日	35.1 N/mm <sup>2</sup>	
曲げ強度	7日	6.8 N/mm <sup>2</sup>	
	28日	8.1 N/mm <sup>2</sup>	

### 【促進鉄筋腐食試験】

鉄筋腐食促進試験開始から1年後の内部鉄筋の状況



普通モルタル：  
腐食あり



RISクロルフィックスエース：  
腐食なし

## 7 使用上の注意

### 【練混ぜ】

▶練混ぜ水は油、塩類、有機物など含まない清浄な水を使用してください。使用水量は、材料温度、環境温度、ミキサの形状、練り量などにより変化しますので、予め試験練りで適性水量を決めて下さい。

▶練混ぜはモルタル専用高速ミキサか、900rpm以上のハンドミキサを使用して下さい。ハンドミキサの回転羽根はステンレス製または鉄製を使用し、アルミ製は絶対に使用しないで下さい。アルミ製は異常膨張の原因となります。練混ぜ水の量が規定外の場合は、モルタルの性状が損なわれることがありますので、指定の水量以外は使用しないで下さい。

### 【保管上の注意】

▶普通セメントより吸湿性が高いため、一旦開封したものはその日のうちに使用して下さい。製品は直射日光、雨水の影響を受けない乾燥した室内に貯蔵保管して下さい。

# Denka

### データ等記載内容についてのご注意

- 本書記載のデータ等記載内容は、代表的な実験値や調査に基づいたもので、その記載内容についていかなる保証をなすものではありません。
  - ご使用に際しては、必ず貴社にて事前にテストを行い、使用目的に適合するかどうかおよび安全性については、貴社の責任においてご確認ください。
  - 本書記載の当社製品およびこれらを使用した製品を廃棄する場合は、法令に従って廃棄してください。
  - ご使用になる前に、詳しい使用方法や注意事項等を技術資料・製品安全データシートで確認してください。
- これらの資料は、当社の担当部門にご用意してありますので、お申しつけください。
- 本書の記載内容は、新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。



**警告**



- 水や汗・涙等の水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚、目、呼吸器等を刺激したり、粘膜に炎症を起こします。
- 目に入れないこと。入った場合は、直ちによく洗浄し、専門医の診断を受けること。
- 皮膚に付けないこと。
- 鼻や口に入れないこと。
- 保護メガネ、防塵マスク、ゴム手袋を着用のこと。
- 子供に触れさせないこと。